

平成 29 年度 新任職員研修復命書より

鼎あかり保育園 保育士

新任職員研修を受講して参りましたので報告いたします。

まず、法人の基本理念と歴史などについて学びました。法人の理念となる「一隅を照らす」という言葉を耳にしたことがなく、どのような意味が込められているか分かりませんでした。しかし、研修を通して、この言葉には自分がいる場所で自分自身が光り輝くことで、他人に貢献する、という意味があるという事を学びました。主役はお年寄りの方や子供たちであり、自分のできることを最大限に生かしながら、自己実現を支えていくことが大切だと感じました。そのために、様々な経験や勉強をしていく中で、今よりも確かな技術を身につけ、生かせる幅を広げていきたいと思いました。また、『誰にでもできる行為』で『自分の周りの人を幸せにする』という言葉をお聞きし、当たり前のことのようにも感じますが、優しさや思いやりを忘れず、関わっていく人と寄り添いあえるような人になりたいと感じました。

そして、社会人の基本マナーについても学びました。改めて、言葉の正しい使い方やお辞儀の仕方、電話の受け方、かけ方などを学びました。言葉遣いでは、尊敬語と謙譲語を混同してしまわないように正しく話すことだけでなく、クッション言葉を使ったり、命令形を依頼形に代えて伝えたりすることなど、相手の立場を考えて相手にあった言葉を使うことを意識することで、大きく印象が変わるのだという事を感じました。また、言葉遣いだけでなく、身だしなみを整えることや、表情豊かにすること、姿勢は正してメリハリのある動作をすること等、すべてのことに気を付けることで好感から信頼に繋がることを学びました。反対に好感を持たなければ、信頼にも繋がらないと思ったので、学んだことをしっかりと生かして信頼に繋げていきたいと感じました。

最後に、学生時代は自分たちが輝けるように、多くの人に支えられていただきながらここまで来ることができたと感じています。しかし、この研修を通して、今度は私たちが支えていく番になるという事を強く感じました。保育園で生活していく中で、子どもたちには友達と一緒に過ごし遊ぶことの楽しさや思いやりの心などを自然と育てていけるように支えていきたいと思いました。そのために、保育者としての専門的な知識や技術を高めていくことはもちろん、萱垣会の職員としての自覚を持ち、人として美しく生きていけるよう意識して仕事をしていきたいと思います。

広済寮 看護師

研修を受けて、以前は病院で働き医療中心の看護をおこなってきました。去年5月よりこちらで働き始めてから、先輩の看護師、介護士の方からご指導いただき、そして、なにより利用者様、本人と関わっていく中で、たくさんの医療中心で働いていた自分との差に戸惑いを感じていました。延命中心とまではいきませんが、すぐに胃ろうを造設したり、点滴をはじめ食事を中止したりと医療の指示に従って看護を行ってきました。それが、「特養」では、どうしたら食事を食べられるのか、どうしたら今まで通りの生活が送れるか、自分たちで考え、看護・介護を行っていく姿を見たとき、改めて学習不足だと感じました。

医療の現場ではなく『家庭』の中での看護師の役割とは何か、日々葛藤しながらの業務でした。今回、新任研修として参加し、どれもすべて『利用者様本人の為』と教えていただきました。

高校で福祉の勉強をし、それが当たり前で一番大切なことだと学んだはずなのに、看護学校に進み、総合病院で働く中でいつの間にか『医療が本人の為になる』と思うようになっていました。5日間の研修を通して、自分の考えを改めれたと思います。

去年から特養で働く中で、『こうしたら楽なのに』『疾病があるからこうするべきなのに』と考えることがありましたが、再度学習、自分は誰の為に看護を行っているのかをもう一度考えられました。

それぞれの施設を見学する中で、それぞれに特色があると学びましたが、どこの場所も温かい雰囲気があり、これが『家庭』なのだと思うようになりました。

『一隅を照らす』という理念のもと、私自身も看護師として他の職種と連携を図りながら利用者様のニーズを少しでも叶えられる用に努めていきたいと思います。

今まで知っていたけれどできなかったこと、今回の研修で初めて学んだことなどたくさんあるので、明日からの業務で活かし、自分だけではなく同じ職場で働くスタッフも同じ志で働いていけるように動いていきたいと思います。

第二光の園 介護士

5日間の研修の中で、自身のこれまでを振り返り、基本を再確認することができました。さらに、新たな学びも多くあり、4月からの業務に向けてモチベーションを高めることができました。

今回、初めて萱垣会の歴史を学び、基本理念を聞くことができました。基本理念を理解することは、今後、業務をする際に最も重要なことであると思います。これまで継続してこられた萱垣会の歴史を汚す事のないよう基本理念を常に心がけ業務を行っていきたいと思います。

接遇やコミュニケーションでは社会人として人間としての責任と自覚を意識していきたいと思います。これから入居者様や職員の方々など多くの人達と関わっていくこととなります。TPOに合わせたコミュニケーションを考えながら対人援助技術を意識して関わっていききたいと思います。

また、介護技術の研修では、基本に立ち帰るとても良い機会となりました。プライバシーに対しての気遣い、リスクマネジメントを心がけ、その場に応じたケアを適切に行っていききたいと思います。

最後に、人間の人生に最期の時間に関わっていくことは、とても大きな意味を持つことだと思います。自身の関わり方でその人の人生がよいものだった思ってくれるような介護士でありたいと思います。

多職種の方々、先輩職員の方々と連携しながら、チームケアの実践を目指し、自分が与えられた立場をしっかり理解し、業務にあたっていききたいと思います。また、今後も学びを深め、介護士として大きく成長していきたいと思います。5日間、学習の機会を与えてくださりありがとうございました。

かなえデイサービス 看護師

NHK のドラマで大きなお屋敷で、何不自由なく暮らしていたお嬢様が戦後の焼け野原に放り出された。食べ物や住むところがなく、汚れた服を着て夫の帰りを待つ。盗みや悪事をし周囲が荒んでいく中、子供と二人協力して生きていく女性の物語でした。

このドラマと同じ時代に幸道師は『萱垣寮』を開設したと聞いた。創設当時の写真にテーブルを囲む利用者さんの前に1杯ずつお碗が並ぶ食事風景。この時代、40名もの食事を準備するのは大変な苦勞があったと思います。ドラマではなく実在する方で『一隅を照らす』の精神は、今では社会福祉法人となって受け継がれている、素晴らしいことだと思います。

昨年より、かなえデイサービスセンターで働くことになり私が思っていた以上に、飯田は独居、高齢者世帯、認知症の方が増えていると感じています。私は、日中のトイレ、入浴など生活介助は他のスタッフと一緒にできるが、力のない1人だったらどのように介助するだろうと思う時がある。利用者さんのノートに「夜寝ていません」「食事が食べれない」など、書かれているとき、介護の大変さ、支援の重要さを実感します。家族と会うのは送迎のわずかな時間だけです。このとき、少しでも多くの家族と関われるように努めたいです。また、古い施設でトイレ等使いにくいところがありますが、「あの人に会いたいからここに来る」と利用者さんが言っていただけるような人間になりたいと思います。帰宅後、あの時の言葉は正しかったのか、思いかえす日々が続きますが、専門的知識を身につけ、安心して利用していただけるように勉強し続けたいです。